

令和 5 年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮大学
団体等名	学生団体 Orion×Students (おーえす！)
学生代表者氏名 (所属・学年)	市田 愛恵 (宇都宮大学共同教育学部学校教育教員養成課程人文社会系英語分野 4 年)
責任教職員氏名	石井 大一郎 (宇都宮大学地域デザイン科学部准教授)

1. 事業名	Orion School Festival (オリフェス)
2. 実施時期	2023 年 12 月 10 日
3. 実施場所	オリオンスクエア (〒320-0802 栃木県宇都宮市江野町 8-3) オリオン通り商店街 (住所省略)
4. 事業の内容等	<p>Orion×Students (以下” おーえす！”)は、昨年度 8 月の開催に引き続き、宇都宮市の商店街「オリオン通り」にて、学生主体の合同学園祭イベントを実施した。</p> <p>今年度は昨年よりも更に学生や地域住民との交流の機会の創造、関係性の質の向上や、SNS を通した商店街の魅力発信、運営スタッフである学生の成長の促進など、地域貢献に着目した活動を行うために、Orion School Festival (以下” オリフェス”)を開催するにあたって 3 つの目的を設けた。</p> <p>《開催目的》</p> <ol style="list-style-type: none"> オリオンスクエアでのステージ発表及びブース出店による、学生の「表現の場」や「コミュニケーションの場」の創出。 学生のみならず、地域の方々にも会場に足を運んでもらい、商店街の魅力や現状を知ってもらうことや、オリオン通りに対する愛着を持ってもらうきっかけを提供すること。 オリオン通り商店街に訪れた人々の意見交換の場をつくり、商店街のさらなる発展につなげること。 <p>《概要》</p> <ol style="list-style-type: none"> ステージ発表 オリオンスクエア及び曲師町側ステージ広場 (琉球おにぎり Sheep 宇都宮店様前のスペース) を使用し、県内の学生 (中学生から大学生まで) が演奏や漫才などのパフォーマンスを実施。 ブース出店および古本譲渡会 オリオンスクエア内および商店街アーケード内において、学生に商品販売等のブースを出店。また、宇都宮大学およびオリオン通り AC プラザにて事前に回収した古本を用いて、オリオンスクエア内で古本譲渡会を実施。

	<p>3 謎解き企画 オリオン通り内の各店舗様にご協力いただき、店舗に関する謎解きクイズを作成。公式LINEを活用し、来場者が店舗を巡るような謎解きラリーを行った。また、景品として協力店舗様の商品を使用した。</p> <p>4 アンケートボード シールを貼る形式にて、アンケートボードをご来場いただいた方に記入していただいた。</p>
<p>5. 事業の成果と今後の課題</p>	<p>今回はオリオン通りへの人通りが多い日曜日に開催したこともあり、昨年と比較してもより多くの、約 1500 名の方にご来場いただいた。 以下、各企画ごとに成果と課題をまとめる。</p> <p>①ステージ発表 ステージ発表では、県内で活躍する学生計 9 団体に出演いただいた。イベント後には、ステージ参加者の方からまた参加したいといった感想を、ご来場いただいた方からは、「次回ステージ発表者として参加させていただきたい」といったご感想をいただいた。昨年度の反省を生かし、今年度は、オリオンスクエアステージの映像パネルに、発表者の情報をリアルタイムで投影させるなどの工夫をすることで、出演者・観客共に満足していただける内容をつくりあげることができた。</p> <p>②ブース出店 鉄道模型の展示、アクセサリーの販売、「しもつかれコロッケ」の出店など、計 20 団体に協力をいただいた。 また、今年度より初開催した古本譲渡会が来場者呼び込みに効果的であり、来場者が去年よりも増加させることに繋がったと考えている。 課題としては、各ブースの出店場所を把握しにくかった様子が見られたことが挙げられる。次年度は、当日ふらっと訪れた人でも、どこのブースでどのような商品を扱っているのかが分かりやすい仕組みを取り入れる必要がある。</p> <p>③謎解き企画 オリオンスクエアに訪れた人がアーケード内を歩きお店に訪れてもらうきっかけづくり、また謎解きの景品を通して、「参加者にオリオン通り内のお店に興味を持ってもらう・足を運んでもらうきっかけを醸成する」という目的を達成することができた。用意した景品 20 個はすべて参加者の手元に渡り、商店街内のお店を知ってもらう機会を醸成することができた。</p> <p>④アンケートボード</p>

オリオンスクエアに訪れた来場者を対象に、シールを貼る形式でアンケートをとった。来場者は宇都宮市民に限らず、小山市や大田原市など、県北・県南からの方も見受けられた。県外からの来場者も一定数いた。また本アンケートを通し、来場者と運営学生との交流、オリオン通りやおーえす！の活動が見直される機会となった。

全体を通し、昨年の開催よりも規模を拡大してオリフェスを開催することができた。来場者数の増加は、おーえす！としての目標「オリオン通りを活性化させる」ことやオリフェスの開催目標の達成にも繋がるため、次年度以降も来場者数を増加させられるように励んでいきたい。全体の課題としては、開催前の事前広報が遅れてしまったことが挙げられる。告知チラシの作成に時間がかかってしまったため、オリフェスの開催を十分に周知できなかったと考えている。来場者数増加という目標達成のためにも、スケジュール管理を慎重に行い、事前広報に力を入れていく必要があるだろう。

(注) 1. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

2. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。

報告書（添付書類を含まず）はA4判3枚以上5枚以内にまとめてください。

3. この報告書は、各関係機関等へ公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を予定しており、次年度以降の学生活動支援事業に役立てていきます。